



都市 + デザイン

2011年11月 第125号

財団法人
都市づくりパブリックデザインセンター
〒112-0013 東京都文京区音羽2-2-2
アベニュー音羽 2F
TEL. 03-6912-0799
FAX. 03-6912-0930
<http://www.udc.or.jp>

報 告

平成23年度「都市デザイン実務講習会」の開催結果

平成23年度「都市デザイン実務講習会」は、下記のとおり11月1日（火）に東京都千代田区の都道府県会館において開催しました。

講師には、長年にわたって「都市景観大賞」の審査委員長を務められた中村良夫東京大学名誉教授をはじめ、最近の都市景観大賞において国土交通大臣賞を受賞された横浜市及び倉敷市から実務担当者として横浜市都市デザイン室長の中野創氏、倉敷市都市計画課長主幹の原孝史氏をお招きし、それぞれの都市デザイン、景観まちづくりの取り組みについてお話しをいただきました。

中村良夫先生からは、美しく魅力ある都市を創るには二ワ空間の導入・創出が重要であるとして、その哲学から具体例まで幅広いお話しをいただき、最後にまち二ワの多様な事例を題材に、魅力ある都市デザインを実践する上でのヒントを多数いただきました。

参加者は、予定定員を上回る78名に達し、窮屈ながらも最後まで熱心に聴講されました。

- 日 時：平成23年11月1日（火） 13：15～17：00
- 場 所：都道府県会館 401 会議室 （東京都千代田区平河町2丁目6-3）
- プログラム：
 - （1）魅力ある都市景観形成に向けた総合的取組み
～横浜市の都市デザイン活動の40年とこれから“その戦略と展開”～
横浜市都市整備局 都市デザイン室 室長 中野 創 氏
 - （2）倉敷市の歴史的景観とまちづくりの今
～倉敷美観地区の取組みについて～
倉敷市建設局都市計画部 都市計画課 課長主幹 原 孝史 氏
 - （3）都市をつくる風景「蘇る山水都市」
～山水都市の華“まち二ワからのまちづくり”
東京工業大学 名誉教授 中村良夫 氏



満杯の会場の様子（最後尾に臨時席を設置）



横浜市都市整備局 都市デザイン室
室長 中野 創 氏



倉敷市建設局都市計画部 都市計画課
課長主幹 原 孝史 氏



東京工業大学 名誉教授
中村良夫 氏

平成 23 年度景観まちづくり・都市デザイン先進事例視察
「越谷レイクタウン」見学会の開催結果

平成 23 年度景観まちづくり・都市デザイン先進事例視察の第一弾として、10 月 26 日に「越谷レイクタウン」見学会を開催しました。

はじめに「水辺のまちづくり館」において、UR 都市機構埼玉東部開発事務所事業課長の齋藤氏よりニュータウンの事業概要等の説明を受け、続いて（株）GEO パワーシステム関東本部営業課長の山下氏よりニュータウンにおける地中換気システムについて説明を受けました。その後齋藤氏の案内により調整池の岸辺を歩きながら周辺のオープンスペースを視察しました。続いて大和ハウス工業（株）東京支社の堀氏の案内で、同社が建設した集合住宅屋上に設置されている太陽熱利用システムを視察し、引き続き大和ハウス工業（株）技術本部の山下氏の案内で、同社が建設した戸建住宅地における様々な環境対策と空間デザインを視察しました。最後に、イオンリテール（株）SC 営業本部の御殿谷氏の案内で、ショッピングセンターの「イオンレイクタウン」及び「レイクタウンアウトレット」における環境対策等を視察しました。

参加者は公共団体、コンサルタント、udc 会員企業、学生の方々に、予定定員を超える 23 名でした。

■開催日：平成 23 年 10 月 26 日（水）13 時 30 分～16 時 30 分（3 時間）

■主な視察内容：

1) レクチャー

- ① 事業概要について（DVD 映像）
- ② 環境共生を先導するまちづくりについて
- ③ 地中熱換気システムについて

2) 現地視察

- ① 調整池及び周辺のオープンスペース
- ② 大和ハウス工業(株)開発の住宅地
- ③ イオンリテール(株)開発の複合商業施設

■講師：UR 都市機構埼玉東部開発事務所、(株)GEO パワーシステム、大和ハウス工業(株)、イオンリテール(株) の方々



参加者の皆さん



説明会場の様子



UR の齋藤氏によるレクチャー



GEO パワーシステムの山下氏によるレクチャー



調整池についてのレクチャー



イオンレイクタウン内での説明風景



調整池周辺のオープンスペースについての説明風景



イオンレイクタウンにおける電気自動車充電ステーションの説明風景



集合住宅屋上に設置された太陽熱利用システムについての説明風景



住宅地の屋外空間についての説明風景



戸建住宅地の視察風景

平成 23 年度 都市景観大賞 東京都庁パネル展示の開催結果

平成 23 年度都市景観大賞「都市空間部門」及び「景観教育・普及啓発部門」の受賞地区・活動を紹介するパネル展示を下記のとおり東京都庁で開催しました。

- 開催期間：平成 23 年 10 月 3 日（月）～7 日（金）
- 会場：東京都庁第 1 庁舎南展望室（45 階）



東京都庁第 1 庁舎南展望室（45 階）におけるパネル展示の様子

第 14 回 2011 年「まちの活性化・都市デザイン競技」現地説明会開催結果

1. 応募登録者を対象とした現地説明会

第 14 回 2011 年「まちの活性化・都市デザイン競技」は、新潟市の都心軸上に位置する「萬代橋周辺地区」を対象地区として現在作品募集中です。同コンペへの参加を表明した登録者数は 55 グループになっています。

これらの登録者を対象に現地説明会を 10 月 12 日（水）に開催しました。同説明会には 19 グループ、48 名の方が参加し、説明会場での説明と質疑応答に続いて、対象地区（現場）へ行き新潟市からの説明等を受けました。



説明会場での様子



対象地区（信濃川護岸）での説明の様子

2. 審査委員を対象とした現地説明会

また、審査委員を対象とする現地説明会を 11 月 21 日（月）に開催しました。西村委員長をはじめ、高見委員、藤本委員のほか、地元新潟市からは新潟市長ほか関係者が列席されました。あいにくの寒雨模様でしたが、予定通り現場の視察も実施されました。



説明会場での様子



対象地区（信濃川護岸）での説明の様子

u d c 自主研究部会活動について

■10月～11月の各部会の活動実績

1. 「景観・ITS・ユニバーサルデザイン研究部会」

第2回部会 日時：10月20日（木）15：00～17：00
 議題：①健康・医療・福祉 まちづくりについて
 ②避難系サインについてについて

2. 「アーバンリフォーム研究部会」

第3回部会 日時：10月5日（水）15：00～17：00
 議題：①外来型の質問項目とイメージ写真の整理
 ②地域型の質問項目の整理のための対象検討事例の決定

第4回部会 日時：11月9日（水）15：00～17：00
 議題：①外来型の質問項目・イメージ写真の確認
 ②地域型の質問項目の整理のための対象検討事例の決定
 ③今後の課題と展



第4回「アーバンリフォーム研究部会」の様子

u d c 低炭素まちづくり研究会活動について

u d c 低炭素まちづくり研究会は、土地区画整理事業における低炭素化の具体的な実現方策を研究する目的で2010年1月に立ち上げて以来、ほぼ隔月に1回のペースで開催しています。今年度はこれまでの研究成果を踏まえつつ、「(仮称)土地区画整理事業による低炭素まちづくりの実現に向けてのガイドブック」づくりに向けて検討を進めています。

[研究会構成メンバー]

- ・(株)エイト日本技術開発
- ・(株)オオバ
- ・(株)サンワコン
- ・昭和(株)
- ・玉野総合コンサルタント(株)
- ・(財)都市づくりパブリックデザインセンター（事務局）

[23年度 10月～11月の活動]

- ・第13回 10月20日（木）
- ・第14回 11月24日（木）



第14回 研究会の様子

なお、平成24年1月に開催される「TX 沿線6都市低炭素都市づくりワーキング」(都市計画学会との協働事業)において、u d c 低炭素まちづくり研究会のこれまでの成果を中間発表する予定です。

景観行政ネットについて

「景観行政ネット」の登録会員数は徐々に伸びており、平成23年11月21日現在で314団体となっています。

「景観行政団体一覧」「景観法に基づく景観計画一覧」「景観行政ネット一覧」「景観に関する取り組み状況」「景観行事カレンダー」等の各ページについて、逐次新たな情報を追加更新しています。

10月～11月に発行したメールマガジン「景観行政ネット通信」は下記のとおりです。

- | | | | |
|-----------------|-----------|-----------------|-----------|
| ・景観行政ネット通信 第19号 | 10月 3日発行 | ・景観行政ネット通信 第22号 | 11月 7日発行 |
| ・景観行政ネット通信 第20号 | 10月 14日発行 | ・景観行政ネット通信 第23号 | 11月 17日発行 |
| ・景観行政ネット通信 第21号 | 10月 25日発行 | | |

景観行政ネット URL : <http://www.keikan-net.org/>

平成 24 年度 都市景観大賞 募集中

平成 24 年度都市景観大賞「都市空間部門」及び「景観教育・普及啓発部門」について下記のとおり募集中です。良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した組織等であれば誰でも応募できますので、奮ってご応募ください。

■募集期間

平成 23 年 10 月 4 日（月）～12 月 26 日（月）

■都市景観大賞「都市空間部門」の表彰内容

- ・街路・公園や公開空地等の公共的空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を募集します。
- ・良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等が応募できます。
- ・優れた地区には、国土交通大臣賞（1～2 地区）、優秀賞（数地区）、特別賞（適宜選定）を表彰します。

■都市景観大賞「景観教育・普及啓発部門」の表彰内容

- ・景観に関する教育・意識啓発、知識の普及等を地域に根ざして行っており、その取組みが地域の人々の景観への意識・関心の高揚につながっている優れた活動を募集します。
- ・景観教育や景観まちづくりに関する意識啓発を行っている学校、まちづくり組織、これらの団体を支援している地方公共団体などで、かつ、3 年以上継続して実施している団体が応募できます。
- ・優れた活動には、国土交通大臣賞（1 団体）、優秀賞（数団体）を表彰します。

■応募方法

- ・「応募要領」に従って、指定の応募図書を作成し、平成 23 年 12 月 26 日（月）までに（消印有効）、下記提出先へご送付ください。
- ・「応募要領」（応募図書の様式を含む）は、下記のホームページよりダウンロードしてご利用ください。

URL：<http://www.udc.or.jp> の都市景観大賞のページ

■応募図書提出先・お問い合わせ先

- ・「都市景観の日」実行委員会事務局 都市景観大賞担当
〒112-0013 東京都文京区音羽 2-2-2 アベニュー音羽 206 号
財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター内
TEL：03-6912-0799 E-mail: info@udc.or.jp

■実施機関

- ・主催：「都市景観の日」実行委員会 事務局：（財）都市づくりパブリックデザインセンター（udc）
- ・後援：国土交通省



表彰盾（アクリル板＋アルミ銘板）

国交省の動き（平成24年度概算要求）

平成23年9月に公表された「平成24年度予算概算要求概要」から一部を抜粋して紹介します。

■予算の重点化の方針（抜粋）

東日本大震災の発生を踏まえ、被災地の復興等を協力を推進するとともに、全国における災害に強い社会基盤整備をはじめとする国民生活の安全・安心の確保に向けた取組を緊急に進めていく。また、持続可能な低炭素・循環型社会の構築、成長戦略の推進、地域活性化等のための基盤整備といった分野に重点を置いて、「選択と集中」を徹底し、メリハリのある要求を行う。

各事業・施策分野においては、その目的・成果に踏み込んできめ細かく重点化し、限られた予算で最大限の効果の発現を図る。

■主な予算関連新規要求事項（一部抜粋）

事 項	内 容	要求額 (百万円)
歴史的風致維持向上 推進等調査の創設	町家等の歴史的建造物の滅失を防ぎ、歴史的まち並みを保全・活用するため、民間の資金を建造物の修理等に導入しやすくするためのスキームづくりや制度構築、空家、空地の発生等による景観悪化への対策、歴史的建造物保存の専門家組織の育成といった、地方都市の歴史まちづくりの隘路となっている共通課題に対応する調査により対策を実証し、歴史まちづくりを推進する。	130
低炭素・循環型社会 形成推進事業の創設	国土交通行政におけるゼロエネルギー／ゼロエミッションの取組促進を図るため、公募による実証実験を実施するとともに、これまで行われてきたゼロエネルギー／ゼロエミッション施策について国土交通分野における効果の把握・検証を実施する事業を創設する。	100
エネルギー面的利用 推進事業の創設	地球温暖化や東日本大震災を契機とした自然エネルギー、未利用エネルギーの活用へのシフトという社会的背景を踏まえ、太陽光や工場廃熱等の自然エネルギー、未利用エネルギーの活用促進を図るため、市街地整備の一環として、これらエネルギーを地区・街区単位等で面的に活用するシステムを構築するための計画策定、実証実験、施設整備等の事業実施に対して支援を行う。	1,000
都市における地産地 消型再生可能エネル ギー活用の推進	都市の公園・街路等から発生する未利用の植物廃材を、地産地消型再生可能エネルギーとして活用することにより、災害にも強い低炭素・循環型都市の実現を図るため、①都市由来の植物廃材の特性を踏まえた、エネルギー化効率の高い発電プラントの開発に向けた実証実験と、災害時に非常用電源として使用するための運営計画の策定、②植物廃材の収集・運搬、エネルギー転換、副産物の処理など一連のプロセスにおいて金銭的収支及びCO2収支が成立する方策等の検討とその成果による技術的指針の策定等を行う。	470
街区防災性能等向上 促進事業の創設	人口・機能等が集中する交通結節点のビル群等において、大規模災害が発生した場合における人的・経済的被害等の抑制と基本的な都市機能の継続性の確保を図るため、地方公共団体やビル所有者等からなる街区防災に関する協議会等の運営や街区防災計画（仮称）に基づく避難者・帰宅困難者等の受け入れのための一時滞在施設や備蓄倉庫等の整備・確保、交通情報・支援情報の提供、避難訓練等の災害予防対策など、ソフト・ハード両面にわたる総合的な対策を促進する街区防災性能等向上促進事業を創設する。	1,000
ユニバーサルツーリ ズム促進事業	移動制約者（車椅子利用者などの障害者や高齢者）の旅行の機会を拡大することにより誰もが旅行に参加しやすい環境づくりを進めるべく、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえ、障害者等も含めた全ての観光客が同等の楽しみを享受できる観光旅行（ユニバーサルツーリズム）を促進するため、観光地におけるユニバーサルツーリズムの先進事例のモデル化や、移動制約者のニーズを踏まえた観光地のユニバーサルツーリズムの旅行環境改善を行うことで、地域の自治体やNPO法人の取組みを側面支援する。	19
「新しい公共」によ る地域づくり活動に 係るプラットフォーム 事業の創設	条件不利地域等で寄付を集めて行う地域づくり活動等について、寄付を集めやすくする環境を整備することにより、行政からの公的資金による支援に依存した経営からの脱却を支援する。このため、活動内容を審査・助言し優良な活動等を紹介する事業を実施することにより、寄付を通じて民間資金が集まりやすくなるスキームの構築を図る。	30

このコーナーでは、udc 職員が目にして面白いと感じた図書を新旧を問わず無作為に紹介しています。

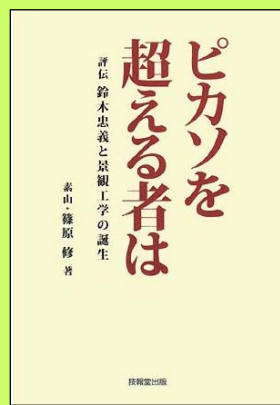
■ピカソを超える者は

～ 評伝 鈴木忠義と景観工学の誕生 ～

篠原 修著

2008年8月発行、四六 226 頁、定価 1995 円

今日、景観という分野は、それなりの存在感をもって土木、都市計画、造園の各界に一派をなしているが、明治維新から始まった我国の近代土木において、景観工学という分野が存在していたわけではない。景観工学は昭和三十年代に一人の稀有な教育・研究者にして実践家でもある鈴木忠義によって始められた分野である。本書は、この景観工学誕生に至る軌跡を、創始者である鈴木忠義の情熱に満ちた思想、行動とともに描き出した渾身の一作である。(技報堂出版 WEB 頁より転載)



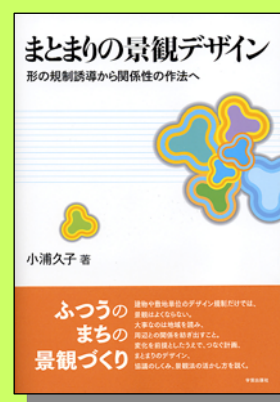
■まとまりの景観デザイン

～形の規制誘導から関係性の作法へ～

小浦久子 著

2008年9月発行、A5 判 240 頁、定価 2730 円

生活と器となる建築が変わり続けるなかで、どうすれば景観は良くなるのか。いま必要なのは、変化を無理強いすることでも抑えることでもなく、地域の生活文化の表出である景観を、ゆっくりと創出するしくみだ。形の規制誘導だけでなく、周辺との関係を意識した景観づくりへと導く計画、協議のしくみ、景観法の活かし方を説く。(学芸出版社 WEB 頁より転載)



■生活景

～身近な景観価値の発見とまちづくり～

(社)日本建築学会編

2009年3月発行、A5 判 288 頁、定価 3255 円

なぜこんなにも現代の日本の風景は貧しいのか。それは日常の暮らしが滲み出た風景＝生活景を見失ったからだと本書は提起する。地域に蓄積された歴史や文化を内包する生活景は、景観の地模様となり、コミュニティを育む媒体ともなる。気づかないまま失いつつある生活景を価値づけ、その可能性を共有する手がかりを提示する。(学芸出版社 WEB 頁より転載)



■路地からのまちづくり

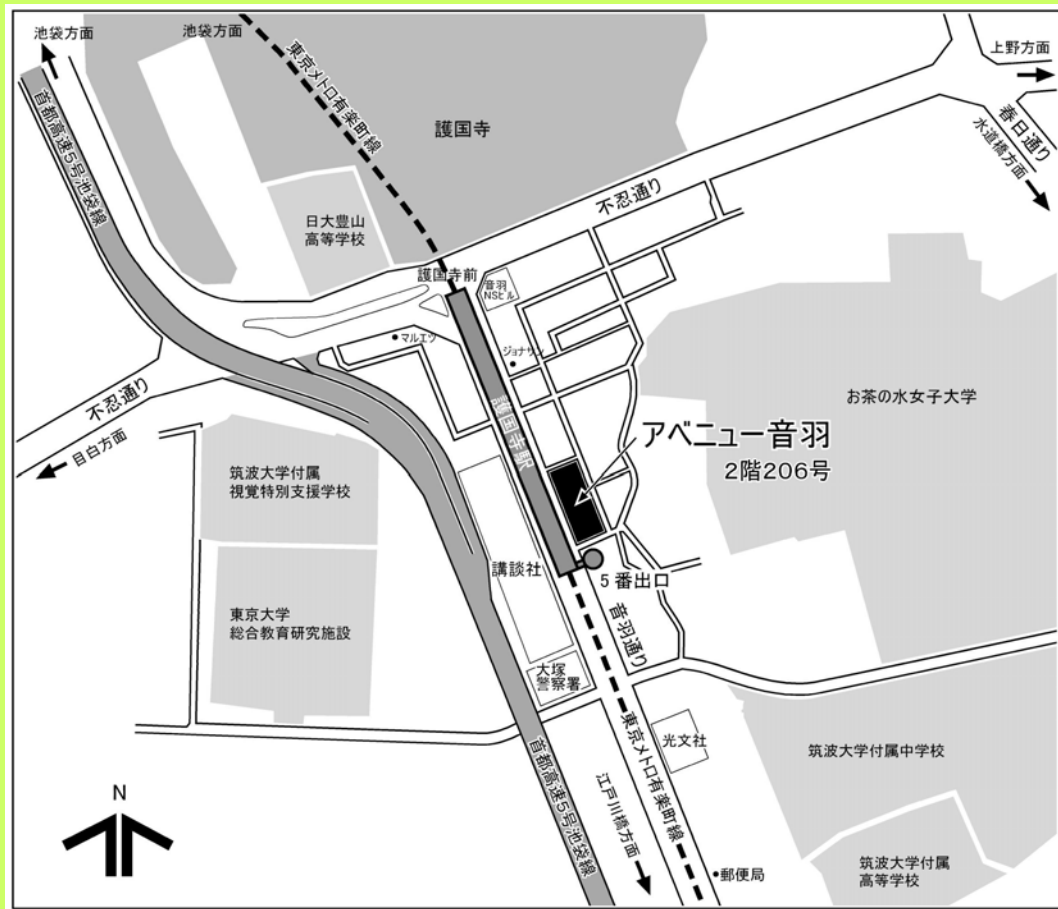
西村幸夫編著

2006年12月発行、A5 変型判 272 頁、定価 3150 円

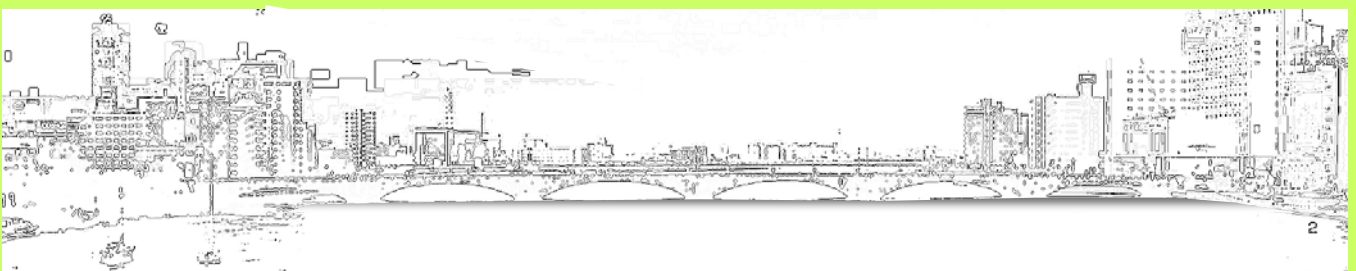
近代都市計画が否定してきた路地が、そのヒューマンなスケールゆえに生活空間として、また賑わいや設えの空間として注目されている。本書では、界隈の魅力を保全・再生しつつ、まちづくりに活かしている各地の取り組みを報告。路地の復権を目指し、保全に向けた法制度と、ネックとなる防災・交通問題の解決手法を提起する。(学芸出版社 WEB 頁より転載)



udc事務所 案内図



最寄り駅：地下鉄〔東京メトロ有楽町線〕の護国寺駅「5番出口」より徒歩1分



第14回「まちの活性化・都市デザイン競技」対象地区（新潟市中心部）に架かる「萬代橋」（国指定重要文化財）